

[症例・事例報告]

生涯スポーツを志向した大学体育におけるスポーツの役割と意義

埴 佐敏, 高橋 一栄

キーワード：スポーツの楽しさ, 授業評価, 生涯スポーツ

The roles and meanings of sports in the university physical education intending lifelong sports

Satoshi Hanawa, Kazuei Takahashi

Abstract

The university physical education, which is based on the elementary, junior and high school physical education, should develop lifelong sports, with further feeling of fun and pleasure. Therefore the effectiveness of the class on soft-volleyball was verified in this reserach. As a result, the satisfaction ratings of PE classes have been improved among not only the students of Healthy Sports Department but also the students of Social Welfare Department and Nursing Department in Niigata Univercity of Healht and Welfare. And the group with the high satisfaction score tend to enjoy sports in every day life, compared with the group of the low satisfaction scores. This suggests that the PE classes where students feel fun and pleasure enhance the positive attitude toward sports, which would develop into the lifelong behavior of enjoying sports.

Keyword : hapiness of sports , class evaluation , lifelong sports

要旨

大学体育は、小・中・高等学校までの体育を基盤に、より一層スポーツの楽しさを体感させ、生涯スポーツにつながるものでなければならない。そこで本研究では、ソフトバレーボールを取り上げ、その有効性を検証したところ、健康スポーツ学科の学生だけでなく、社会福祉学科や看護学科の学生においても、体育授業の満足度が向上した。また、この授業で高い満足を得た群では、低い群に比べ、日常生活の中でスポーツに親しもうとする

様相が見られた。このことから楽しさや喜びの得られる授業によって、学生のスポーツに対する態度が好意的態度に高められ、生涯スポーツにつながる可能性が示唆された。

I 緒言 (目的)

スポーツは、広義には健康や楽しみのために行われる身体活動の総称であり、気晴らしや遊びを意味するラテン語を語源とするものである¹⁾。したがって、だれもが

新潟医療福祉大学 健康科学部 健康スポーツ学科

[連絡先] 〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL・FAX : 025-257-4436
E-mail : hanawa@nuhw.ac.jp

その能力に応じ、だれからも強制されたり、規制されたりすることなく楽しめるものでなければならない。

一方、生涯スポーツを志向する今日、学校体育の目標は、自ら運動する意欲を培い、生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質や能力を育成することを重視²⁾している。また新学習指導要領の小学校体育科³⁾及び中学校保健体育科⁴⁾の目標のなかに「生涯にわたって」という文言が加えられ、生涯体育につなげる学校体育の役割がより一層明確にされた。このことは、児童生徒が成人後も生涯にわたって自発的にスポーツに親しむことを一層求めているわけで、そのためには体育の授業においてスポーツをすることの楽しさを味わわせることがますます必要になってくることを意味している。

そこで、本研究では、スポーツの楽しさを味わわせ、生涯スポーツへの志向性を高めるための体育授業の役割と意義を明らかにすることを目的に、ソフトバレーボールを取り上げ検証することとした。

II 研究方法

1 調査対象、調査方法及び調査内容

(1) 調査対象

平成20年度、本学に入学した一部の学生（健康スポーツ学科（40名、男子21名、女子19名）、社会福祉学科（43名、男子19名、女子24名）、看護学科（43名、男子8名、女子35名）の計126名を対象とした。

(2) 調査方法及び調査内容

本研究では体育の授業で運動の楽しさをどのように体得（分析の視点1；体育授業評価）し、それが日常生活の中でのスポーツへのかかわり方にどのように影響を与えたのか（分析の視点2；スポーツの生活化）の2つの視点から分析することとした。

①分析の視点1；体育授業評価

分析の視点1では、学習者属性によって高等学校（以下、高校）時代の体育の授業評価がどのように異なるのか、そしてそれが本学のスポーツ・健康I^(註1)の授業後、どのように変化していくのかを把握することとした。そのために、小林の作成した態度評価^(註2) 5)を活用し、4月に高校時代の体育授業について、7月にスポーツ・健康Iの授業について、学生による体育授業評価を行った。小林によると、体育の授業に対する生徒の態度は、「運動の喜び」「授業内容に対する評価」「授業に対する価値観」の3つで構成され、質問紙は各10の質問から成っている。それぞれの質問に対し3件法で回答させ、「当てはまる」は1点、「どちらとも言えない」は0点、「当てはまらない」は-1点として得点を計算した。（ただし、一部質問項目で集計時の逆転項目有り）

②分析の視点2；スポーツの生活化

分析の視点2では、スポーツ・健康Iの授業で楽しさ（喜び）を味わうことが、スポーツの生活化に関係しているかを把握するため、7月のスポーツ・健康Iの授業終了後に表1の5つの質問について3件法で回答させた。得点は「はい」には1点、「変わらない」は0点、「いいえ」は-1点で得点化した。

表1：日常的なスポーツへのかかわり方を調べる質問項目

- | |
|---|
| ①高校時代と比べ、いろいろなスポーツに親しむようになった。
(親しむ機会) |
| ②高校時代と比べ、いろいろな人とスポーツを楽しむようになった。
(仲間との活動) |
| ③高校時代と比べ、自分にあったスポーツを楽しむようになった。
(好きなスポーツ) |
| ④高校時代と比べ、手軽にスポーツを楽しむようになった。
(手軽な実践) |
| ⑤高校時代と比べ、日常生活のなかで、身体を動かすようになった。
(意図的的日常運動) |

表2：ソフトバレーボールの授業の基本的な授業構成

時間 (分)	活動概要	留意点
5	○ランニング (体育館5周)	・前期授業開始時に紹介したストレッチ体操の中から、8種目を選び行う。 ・各グループごとに準備
10	○ストレッチ体操	
5	○準備 (ネット張り、ボール準備等)	・パスは各チームごとに、一定時間内での連続回数の向上をねらう。 ・サーブは基本的に相手が受けやすいサーブであることを意識させる。 ・ゲーム初期は、味方が味方のコートにサーブをする。 サーブが入らない学生は、サーブ位置を規定ラインより前で行う。
10~20	○基本練習 ①パス (アンダー、オーバー、混合) ②サーブ (アンダー、オーバー) ③アタック ・ボールを投げ上げ自分で取る ・上に投げてもらい打つ。 ・トスを上げて打つ。 ・相手のいないところに落としたり打ったりする。	
30~50	○ゲーム ・前半・後半6分ずつで1試合 ・1チーム3~4人	
5	○後始末	・ゲーム後半は、通常ゲーム形式でのサーブ。一人で3ポイント以上得点した場合は、アンダーサーブとする。 ・中学校の新学習指導要領「保健体育」E球技のネット型では、「空いた場所をめぐる攻防を展開すること」が示され、アタック練習でもそのことを意識して行わせる。 ・審判、得点等は学生が行う。 ・ルール (ネットの高さ、サーブの仕方、アタックの有無等) は、学生の話合いで考えさせる。
5~10	○授業の振り返りと次時の予告	

(3) スポーツ・健康 I におけるソフトバレーボールの授業構成

スポーツ・健康 I では、スポーツの魅力（楽しさ）を味わわせることを主眼とし、ソフトバレーボールを主教材とした。1 単位時間の基本的な授業の進め方は、「ウォーミングアップ→基礎技能獲得→基本的な戦術練習→ゲーム→振り返り」とした。（表 2 参照）

Ⅲ 結果および考察

1 分析の視点 1；体育授業評価の差異

(1) 高校時代の体育授業評価（検定 1）

高校時代の体育授業について各質問項目ごとに平均値を算出し、t 検定により平均値の差の検定を行った。

（表 3：検定 1）なお、「運動の喜び」「授業内容に対する評価」「授業に対する価値観」のスコアは、各項目の合計得点により算出している。

全体的に健康スポーツ学科の学生は、社会福祉学科や看護学科の学生（以下、一般学科学生）より、平均得点は高い傾向にあり、「運動の喜び」や「授業内容に対する評価」で有意に高い項目が多数見られた。具体的には、一般学科学生は高校時代の体育の授業に対し、「心地よさを味わったり心身の緊張感を開放されたりすることは少なく、喜びより苦しみが多かった。また、体育の授業は、キビキビした動きや人間性の育成に結び付くものではなく、一部の得意な生徒だけが中心になっていた。」と評価していることが分かる。これまで学校体育は「楽しい体育」をキーワードに、運動の楽しさを味わわせることを主眼に実践を重ねてきた。しかし、「楽しさ」が表面的で、本当に運動の特性に触れた楽しさを味わっているのは一部の子どもたちでしかないことが指摘されている。^{6) 7)} また、高橋⁸⁾ は、小・中・高校までの体育授業を色彩で表現させたところ、無彩色（体育の授業に対し否定的）と回答した学生の体育イメージが「授業が強制・命令的」「得意な者だけが目立つ」「授業に自由度を感じられない」「運動が苦手」「競争ばかり」であったと報告しているが、このことも同様の指摘と考えられる。

本研究の結果は、健康スポーツ学科学生が一般学科学生に比べ有意に高い項目が多いことから、前述の知見とほぼ一致するものである。このことは、運動の楽しさを味わっていたのは運動を得意とする群で、不得意とする群では十分な楽しさを味わえていなかったことを示唆するものであり、生涯スポーツへのつながりを考えたとき、技能の優劣よりも、だれもが楽しめる要素をもったスポーツを経験することの必要性を示すものと思われる。

(2) スポーツ・健康 I 受講後の体育授業評価の変化

①健康スポーツ学科と一般学科の体育授業評価（検定 2）

7 月のスポーツ・健康 I の授業終了後、授業評価を行い t 検定を行った。（表 3：検定 2）検定 1 の高校時代の体育授業評価と比較して、「運動の喜び」において一般学科学生の平均得点が向上し両群間に有意差の見られる項目が少なくなったことが分かる。これは、スポーツ・健康 I の授業を通し、一般学科学生が仲間と協力しながらスポーツをすることの楽しさや心身の開放感を味わったことが考えられる。

②学科別にみた 4 月と 7 月での体育授業評価の差異

前期の授業を通し、体育授業評価がどのように変化したかを学科別で見たところ、健康スポーツ学科学生では有意に増加した項目は僅かであったのに対し、一般学科学生では有意に増加した項目が多数見られた。（表 3：検定 3）具体的には「体育の授業では快い興奮が残り、喜びとともに友達を作る場となった」、また「協力し合う習慣が身に付き、理論的な学習もでき、授業の印象も深く残った」、さらに「体育の授業は、能力の高低にかかわらず、みんなが楽しめた」ということが読み取れる。

このように、一般学科学生にとっては、ソフトバレーボールを中心とした体育の授業によって、少なくとも高校時代の体育の授業ではあまり味わえなかった「スポーツをすること自体の喜びや楽しさ」や「スポーツをすることの価値や意義」を、味わうことができたのではないかと推察される。それに対し、健康スポーツ学科学生の得点があまり向上しなかったのは、天井効果と考えられる。

2 分析の視点 2；スポーツの生活化について

(1) 大学入学後のスポーツへの関わり方について

大学入学後、4 か月を経てスポーツへの関わり方が高校時代と比べてどのように変化したかを把握するため、表 1 に示した質問紙を用い前期終了後にアンケート調査を行った。各質問項目で高校時代に比べスポーツへの関わり方が増加又は、減少を選択した学生の数を χ^2 検定で有意差検定を行った。その結果、健康スポーツ学科学生は大学入学後、スポーツに関わる機会が増加傾向を示しているのに対し、一般学科学生は項目によって低下している様子が見られた。（表 4）

これは健康スポーツ学科学生は、大学入学後専門とするスポーツを追求したり、日常生活でもスポーツに親しんでいたりするのに対し、一般学科学生は、高校時代に比べ体育の授業時数の減少や運動部所属への減少から「スポーツに親しむ機会」や「意図的な日常運動」が低下し、日常的にスポーツを楽しむ機会が減少していることが推察される。

表 3：体育授業評価の結果

		授業評価結果								検定結果							
		健康スポーツ学科				一般学科				検定1※		検定2※※		検定3※※※			
		4月		7月		4月		7月		(4月比較)		(7月比較)		変化(健スポ)		変化(一般)	
		m	sd	m	sd	m	sd	m	sd	t 値	結果	t 値	結果	t 値	結果	t 値	結果
運動の喜び	1 快い興奮	0.850	0.427	0.825	0.446	0.522	0.687	0.764	0.501	2.998	**	0.734		0.253		-2.777	**
	2 心身の緊張を開放	0.925	0.267	0.900	0.379	0.652	0.654	0.809	0.423	2.590	*	1.224		0.337		-1.838	
	3 生活の潤い	0.750	0.543	0.750	0.494	0.522	0.654	0.674	0.517	1.967		0.880		0.000		-1.604	
	4 苦しみより喜び	0.875	0.335	0.825	0.501	0.489	0.749	0.775	0.559	3.104	**	0.545		0.518		-2.667	**
	5 集団活動の楽しみ	0.925	0.267	0.950	0.221	0.902	0.333	0.888	0.352	0.300		1.073		-0.451		0.430	
	6 友達を作る場	0.850	0.427	0.825	0.446	0.576	0.579	0.798	0.404	2.691	**	0.422		0.253		-2.774	**
	7 積極的活動意欲	0.750	0.543	0.750	0.494	0.500	0.671	0.629	0.551	2.116	*	1.290		0.000		-1.304	
	8 自主的思考と活動	0.725	0.452	0.700	0.516	0.467	0.656	0.483	0.586	2.434	*	2.042	*	0.227		-0.354	
	9 体育科の価値	0.850	0.362	0.700	0.564	0.402	0.727	0.584	0.540	3.657	**	1.120		1.398		-1.819	
	10 授業時間数	0.400	0.778	0.300	0.648	0.239	0.848	0.438	0.706	1.125		-0.975		0.617		-1.699	
	喜びスコア	7.900	2.706	7.525	3.289	5.272	4.222	6.843	3.067	3.714	**	1.245		0.550		-2.753	**
授業内容に対する評価	11 キビキビした動き	0.675	0.526	0.675	0.474	0.185	0.769	0.225	0.687	3.805	**	3.803	**	0.000		-0.511	
	12 体力づくり	0.625	0.628	0.475	0.599	0.467	0.687	0.506	0.659	1.406		-0.201		1.080		-0.543	
	13 明朗活発な性格	0.675	0.526	0.675	0.526	0.359	0.604	0.427	0.638	3.010	**	2.294	*	0.000		-0.712	
	14 精神力の養成	0.625	0.628	0.500	0.555	0.185	0.710	0.079	0.695	3.690	**	3.395	**	0.932		0.631	
	15 堂々頑張る習慣	0.650	0.580	0.700	0.564	0.348	0.705	0.348	0.659	2.702	*	2.974	**	-0.386		-0.324	
	16 協力の習慣	0.850	0.362	0.925	0.350	0.674	0.537	0.820	0.415	2.076		1.441		-0.931		-2.114	*
	17 基本的理論の学習	0.625	0.628	0.875	0.404	0.087	0.794	0.483	0.709	4.017	**	3.358	**	-2.091	*	-3.515	**
	18 深い感動	0.425	0.781	0.450	0.714	0.217	0.782	0.360	0.626	1.574		0.705		-0.148		-1.548	
	19 授業のまとめ	0.625	0.586	0.850	0.427	0.435	0.684	0.652	0.546	1.458		2.010	*	-1.939		-2.152	*
	20 授業の印象	0.475	0.716	0.600	0.672	0.250	0.820	0.539	0.545	1.385		0.573		-0.79		-2.466	**
	評価スコア	6.250	3.998	6.725	3.471	3.207	3.790	4.438	3.766	4.395	**	3.313	**	-0.560		-2.316	
授業に対する価値観	21 チームワーク発展	0.600	0.632	0.800	0.516	0.598	0.647	0.730	0.517	0.148		0.675		-1.530		-1.617	
	22 みんなの活動	0.725	0.506	0.800	0.516	0.435	0.775	0.742	0.534	2.180	*	0.546		-0.648		-2.986	**
	23 みんなの喜び	0.425	0.675	0.775	0.530	0.315	0.769	0.674	0.560	1.014		0.944		-2.546	*	-3.695	**
	24 利己主義の抑制	0.575	0.594	0.650	0.580	0.554	0.652	0.798	0.457	-0.153		-1.585		-0.564		-2.437	**
	25 永続的な仲間	0.750	0.543	0.725	0.554	0.750	0.527	0.730	0.517	0.056		0.040		0.201		0.279	
	26 主体的人間の育成	0.700	0.608	0.875	0.463	0.717	0.561	0.854	0.386	-0.535		0.326		-1.430		-1.302	
	27 理論と実践の統一	0.675	0.572	0.825	0.501	0.467	0.702	0.787	0.439	1.584		0.514		-1.232		-3.329	**
	28 授業のねらい	0.650	0.622	0.850	0.427	0.413	0.729	0.753	0.483	1.962		1.166		-1.655		-3.645	**
	29 教師の存在価値	0.775	0.530	0.975	0.158	0.543	0.670	0.708	0.568	2.141		2.972	*	-2.256	*	-1.872	
	30 体育科目の必要性	0.625	0.705	0.850	0.483	0.587	0.666	0.719	0.564	0.069		1.235		-1.644		-1.103	
	価値スコア	6.500	4.267	8.125	3.480	5.380	4.370	7.494	3.184	1.336		1.035		-1.843		-3.429	**

* : P<.05 ** : P<.01

※検定1：健康スポーツ学科学生と一般学科学生の高校時代の体育授業評価の比較。(4月調査)

※※検定2：健康スポーツ学科学生と一般学科学生のスポーツ・健康Iの授業評価の比較。(7月調査)

※※※検定3：スポーツ・健康I受講後における体育授業評価の差異。(4月と7月の比較)

(2) 体育授業の喜びとスポーツの生活化について

体育の授業で「運動の喜び」が得られることによって、スポーツを楽しもうとする意欲付けや実際にスポーツを楽しむ運動行動と結び付くことが期待される。

そこで、「運動の喜び」得点の高い群と低い群によって、スポーツへの関わり方がどのように異なるかを表1の質問項目ごとに平均値を算出し t 検定により比較検討した。なお、ここでは「運動の喜び」得点の高い群（喜び得点9点以上とし、以後「H喜び群」）、喜び得点の低い群（喜び得点で健康スポーツ学科学生は6点以下、一般学科学生は5点以下とし、以後「L喜び群」）とした。

その結果、健康スポーツ学科学生の場合、有意差の見られる項目が多かったものの、両群とも一部の項目を除いて高校時代に比べ増加している（表5）。一方、一般学科学生は、多くの項目でマイナスの数値となり、高校時代に比べスポーツへの関わり方が減少している。その中で、「意図的的日常運動」において有意差が見られたことは、喜び高得点群ほど、日常生活の中で意図的に身体を動かそうとしていることが推察される。（表6）

IV 結論

本研究を通し、以下の点が明らかとなった。

ア 高校までの学校体育では、体育を得意とする群ほど、体育の授業に対する評価得点が高くなる傾向が見られた。

イ 大学体育において、競技的要素が少なく、技能もそれほど高さを要求されず、お互いに協力することを主眼としたスポーツ（本研究では、ソフトバレーボール）で授業を構成した。その結果、体育がそれほど得意でなかった群でも、「運動の喜び」「授業に対する価値観」の面で得点の向上が見られた。

ウ 大学入学後のスポーツへの関わり方は、健康スポーツ学科学生は運動部活動への継続所属や専門的スポーツの追求などから、高校時代に比べ増加傾向が見られた。一方、一般学科学生は体育授業時間の減少や運動部活動への所属者数の減少から、スポーツへの関わり自体が減少し、その結果、日常的な運動機会も減少してきていることが推察される。

エ 体育授業で「運動の喜び」高得点群は、低得点群

表4：健スポ学生と一般学生の高校時代と比較した日常生活のスポーツへの関わり方

項目	健康スポーツ学科学生			一般学科学生		
	増加※	減少	結果	増加	減少	結果
①親しむ機会	21	3	$\chi^2(1)=13.500, p<.01$	13	39	$\chi^2(1)=13.000, p<.01$
②仲間との活動	25	5	$\chi^2(1)=13.333, p<.01$	33	23	$\chi^2(1)=1.786, ns$
③好きなスポーツ	21	3	$\chi^2(1)=13.500, p<.01$	23	23	$\chi^2(1)=1.786, ns$
④手軽な実践	20	3	$\chi^2(1)=12.565, p<.01$	30	18	$\chi^2(1)=3.000, .05<p<.10$
⑤意図的的日常運動	14	8	$\chi^2(1)=1.636, ns$	19	42	$\chi^2(1)=8.672, p<.01$

※単位：人

表5：健康スポーツ学科学生のH喜び群とL喜び群のスポーツへの関わり方得点の違い

		①親しむ機会	②仲間との活動	③好きなスポーツ	④手軽な実践	⑤意図的的日常運動
H喜び群 n=19	m	0.632	0.842	0.579	0.632	0.316
	sd	0.496	0.375	0.507	0.496	0.820
L喜び群 n=9	m	0.111	-0.333	0.111	0.111	0.000
	sd	0.782	0.707	0.782	0.782	0.707
t 値		2.057*	5.533**	1.829	2.057*	0.957

*：P<.05 **：P<.01

表6：一般学科学生のH喜び群とL喜び群のスポーツへの関わり方得点の違い

		①親しむ機会	②仲間との活動	③好きなスポーツ	④手軽な実践	⑤意図的的日常運動
H喜び群 n=31	m	-0.290	0.161	-0.032	0.258	-0.097
	sd	0.902	0.934	0.836	0.855	0.870
L喜び群 n=23	m	-0.565	-0.130	-0.043	-0.130	-0.565
	sd	0.590	0.757	0.706	0.694	0.590
t 値		1.250	1.205	0.051	1.752	2.188*

*：P<.05

に比べスポーツとの関わり方が多い可能性が示唆されたことから、スポーツをすることの楽しさを味わわせることが、スポーツに親しもうとする運動行動を発現させられるのではないかと思われる。

Ⅵ まとめ

一般学科学学生はスポーツ・健康Ⅰの授業を通し、スポーツを楽しむという経験はある程度達成されたものと思われる。しかし、高校時代に比べ日常生活で運動する機会が減少傾向にあることが明らかとなった。また本学学生は国家試験対策や資格取得に伴う実習などがあり、スポーツに親しむことに制約がある。このような環境下にある学生に対し、スポーツの楽しさを味わわせ、スポーツの生活化につながる授業を構築していくこと、さらには本学が求めるQOLサポーターの育成にスポーツの果たす役割を明確にしていくことが大学体育に課せられた使命と考える。

謝辞

本調査研究に当たり、授業の一部で御協力をいただいた本学教授若杉透先生、統計処理で御指導をいただいた本学講師遠山孝司先生、またアンケートに協力していただいた学生の皆様に感謝申し上げます。

文献

- 1) 宇土正彦編：学校体育授業辞典，大修館書店，p37，1995.
- 2) 文部省：高等学校学習指導要領解説 保健体育編，体育編，平成11年12月.
- 3) 文部科学省：小学校学習指導要領，p92，平成20年3月告示.
- 4) 文部科学省：中学校学習指導要領，p85，平成20年3月告示.
- 5) 小林篤：体育の授業研究，大修館書店，170-222，1982.
- 6) 三木四郎：「習得，活用，探求」に応じた学習指導をデッサンする，体育科教育，56巻32-35，2008.
- 7) 刈谷三郎：体育の学習指導スタイル．高橋健夫編『体育の授業を創る』．大修館書店．174-199．2007.
- 8) 高橋一栄他：大学体育における教育課程に関する研究（第Ⅱ報）－とくにコンテンポラリースポーツの新たな試みについて－，新潟医療福祉4（1），63-72，2004.

（註1）本学教養体育は、1年前期スポーツ・健康Ⅰでソフトバレーボールを主教材にスポーツの楽しさを、また、1年後期スポーツ・健康Ⅱのトレッキングやスキー実習で仲間

や自然との触れ合いを、そして2年スポーツ実践でソフトバドミントンや、さらに車椅子バスケットボールで障がい者スポーツを経験させている。

（註2）体育授業評価用のアンケート項目

あなたの高校時代の体育の授業を思い出し、次の30のそれぞれの意見に対し、当てはまるなら○、当てはまらないなら×、どちらとも言えないときは△をつけてください。

- 1 体育の授業のあとは、快い興奮が残った。
- 2 体育の授業は、心や体の緊張をほぐしてくれた。
- 3 体育の授業は、生活に潤いを与えてくれた。
- 4 体育の授業では、喜びより苦しみが多かった。
- 5 体育の授業で、いろいろな人と一緒に活動するのが楽しかった。
- 6 体育の授業は、友達を作る場として高く評価できた。
- 7 体育の授業は、自分から積極的に汗を流し、身体を鍛えようとする意欲を起こさせた。
- 8 体育の授業では、自主的に考え行動することができた。
- 9 体育は教科の中で最も価値あるものの一つだ。
- 10 体育の授業は、少なすぎた。
- 11 体育の授業は、キビキビした動きのできる身体をつくった。
- 12 体育の授業は、体力づくりに役立った。
- 13 体育の授業で明朗活発な性格をつくることができた。
- 14 体育の授業は、たくましい精神力を養成してくれた。
- 15 体育の授業は、どんなときにも正々堂々と頑張る習慣を身に付けさせてくれた。
- 16 体育の授業は、お互いに助け合う、協力し合う習慣を身に付けさせてくれた。
- 17 体育の授業では、運動のやり方だけでなく、基本となる理論を学ぶことができた。
- 18 体育の授業では、時々深い感動を覚えた。
- 19 体育の授業は、中途半端でまとまりがなかった。
- 20 体育の授業は、その場限りで長く印象に残るということとはなかった。
- 21 体育の授業で、チームワークやチームプレイの発展を期待するのは無理だった。
- 22 体育の授業では、能力の高いものや図々しいものを中心だった。
- 23 体育の授業で、体育をする喜びを味わうことができたのは一部の人にすぎなかった。
- 24 体育の授業では、人間の利己主義がむき出しになった。
- 25 体育の授業のときの仲間は、その場限りの仲間にすぎなかった。
- 26 体育の授業は、何も考えずに命令に従うだけの人間をつくりやすかった。
- 27 体育の授業は、理論と実践がかけ離れていた。
- 28 体育の授業は、何をねらっているのか分からなかった。
- 29 体育の授業では、他の科目に比べ先生の存在価値は低かった。
- 30 課外で自由にスポーツができる条件があれば、体育は科目としてなくてよい。